

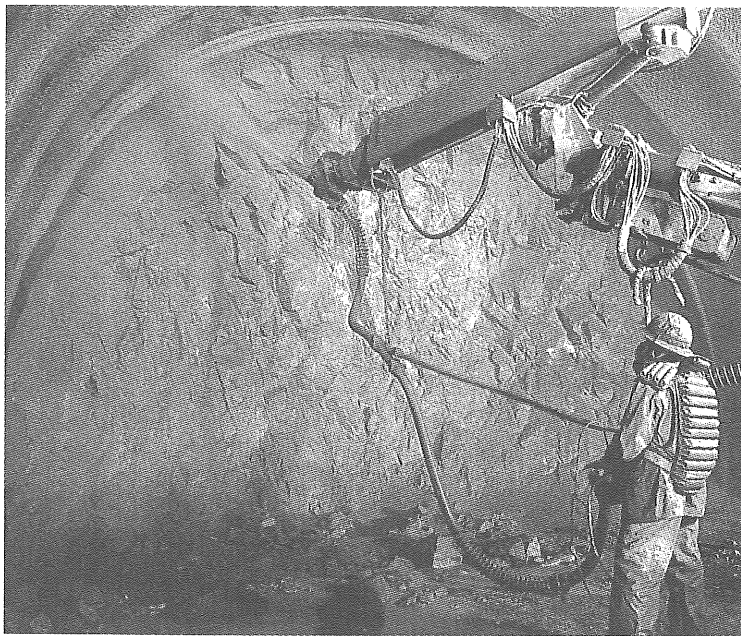
子所長、46人を訪れた。「スマスにまた来てね」と囁り、今年は十勝で開かれる

広尾で建設中の新宝浜トンネル

新工法を試験導入

【広尾】帯広開発建設部が国道336号（黄金道路）に建設を進める新宝浜トンネル（延長2438㍎）で、南側の工事を施工する清水・西江特定建設企業（JV）は、掘削に「球面切羽（きりは）」工法を試験導入している。同JVによると、道内のトンネル工事での採用は初めてで、コスト削減や安全性の向上に期待が寄せられている。

帯開建 道内初の「球面切羽」



球面切羽は、トンネル掘削面全体を球状に掘り進める工法。掘削面がアーチ状になって強度を確保し、地盤を比較的傷めないといわれる。現在、トンネル工事では主流となっているベンチ付き全断面掘削工法では、掘削面の上部を先に掘り進め、下側にできる段を後から削る。このため作業員が段の昇降の際にけがをするリスクもある。球面切羽は段を構築しないため、安全性も高いという。

同トンネル南側工事では、400㍎掘り進めた時点から、球面切羽を採用

球面に掘削されるトンネル最前線の現場

同工法でこれまでに70㍎掘削した。

25日、現場を訪れた同開建広尾道路事務所の本田秀敏所長は「より先進的な技術で、工期短縮や安全性確保につながる」と話していた。同JVでは同工法で一定期間掘り進め、各種データを収集する考えだ。（長田純一）

議会 村長 中札内 一般

コミバスなど公共交通

15年度実施目指す

【中札内】定例会は26日、3人が一般質問を行った。村長選で公約に掲げた生活の足確保に關し、田村光義村長はコミュニティバスなどの公共交通導入を図る考えを示し、「2015年度の実施を目指したい」と述べた。

佐藤耕平氏の質問に答えた。田村村長は「高齢化の進行で交通確保は村でも早急に取り組むべき課題」とした上で「現段階では具体策はないが、今年度に調査検討し、14年度に協議会を設置して試験運行を行う」

とスケジュールを示した。

一般質問を終えて、定例会は同日午後後に閉会した。

（小林祐己）

その他の主な質問と答弁は次の通り。

▽笠松直氏「エゾシカの被害対策は。」

▽田村村長「高齢化が進む猟友会の育成対策に取り組んでいきたい。」

▽黒田和弘氏「（住宅開発が進む）常盤西3線（私道）の道路整備は。」

▽田村村長「スクールバス運行の課題を整理し、可能な対応をしたい。」



国道沿いの花壇を整備

翔南舎

【広尾】町内の学習塾翔南舎（武内みどり塾長）は22日、ボランティアで国道336号・町並木通東2沿いの植樹帯で花壇を整備した。

小学2年～高校3年の塾生25人が参加。約90平方㍎の植樹帯にマリーゴールドを植えた。十勝港で防波堤工事など手掛ける拓殖工業の有志4人も駆け付けた。広尾小5年の高瀬寛人君（10）は「初めてで疲れたけれど、きれいにできた」と笑顔だった。

（長田純一）

